

I、近代国家の成立 4. 日露戦争と国際関係

日清戦争の結果、[1 1895] 年4月[2 下関] 条約が締結された。この条約で清は[3 朝鮮] の「独立」を承認するとともに[4 遼東(リャオトン)] 半島・[5 台湾] などを日本に割譲、また2億両(テール)におよぶ巨額の[6 賠償金] 支払いを認めた。しかし南進をめざすロシアはみずからが獲得をめざしていた[7 遼東] 半島を日本が獲得したことに反発、[8 ドイツ] [9 フランス] を誘って日本にこの半島の返還を要求した。これを[10 三国干涉] という。さらにロシアは遼東半島南部の[11 旅順・大連(先端部)] を租借、[12 東清] 鉄道の敷設権を獲得するなど[13 中国東北部(「満州」)] への勢力拡大をすすめていった。ロシアはさらに1900年の[14 義和団] 事件をきっかけに満州を占領、事件後も撤兵しなかった。

このようなロシアに対抗すべく[15 臥薪嘗胆] を合い言葉に軍備拡張をすすめ、ロシアと対立する[16 イギリス] に接近、[17 日英] 同盟を締結するにいたった。

政府内では日本が韓国、ロシアが満州と勢力圏を分け合おうという[18 満韓交換] 論もあったが、しだいに開戦論がたかまっていっていった。こうした動きに対し新聞「万朝報」紙上でキリスト教徒の[19 内村鑑三] や社会主義者の[20 幸徳秋水] ・堺利彦らは反戦論を唱え、この新聞が開戦論に傾くと幸徳や堺らは[21 平民] 新聞を発刊、開戦後も戦争反対の姿勢をとりつづけた。

c.ロシアとの対立激化と日英同盟

- ①朝鮮・[22 閔妃殺害] 事件をきっかけにロシアに接近、国名を[23 大韓帝国] (韓国)に改称
→日本の危機感の高まり

閔妃殺害事件…(a) 日本の公使三浦梧楼が王妃で反日派の中心である閔妃を殺害させた事件
朝鮮の人々の反発を巻き起こし、ロシアの影響力をますます結果となった。

- ②1900、清国で[24 義和団] 事件発生

義和団事件…民衆結社義和団が[25 扶清滅洋] をスローガンに力を伸ばし、[26 北京] に侵入、
列国大使館を包囲、清国政府も同調し、宣戦布告した事件。日本・ロシアを主力とする[27 連合軍]
に鎮圧され、[28 北京議定書] を締結した。

→ロシア、撤兵せず[29 「満州」] 地方を事実上占領→[30 韓国] へも影響力を増す
→日本、危機感を拡大=[31 対露強硬] 論の高まり
→イギリス・アメリカ・ロシアの対抗勢力として[32 日本] に注目



- ③ロシアに対立する[33 イギリス] に接近、[34 日英] 同盟協定締結

- ④[35 満韓交換] (日露協商) 論と対露開戦論の対立

伊藤博文ら

七博士「対露同志会」・マスコミ・小村寿太郎ら

- ④反戦論・非戦論の出現…[36 内村鑑三] (キリスト教徒)

[37 幸徳秋水] [38 堺利彦] (社会主義者)

c.日露戦争

日露戦争は[39 **1904**] (明治37)年発生、100万人を越える陸軍を派遣しロシア極東艦隊の基地[40 **旅順**]を占領、[41 **奉天**]会戦などで勝利したものの決定的な勝利を得ることはできなかった。他方、日本は旅順艦隊を壊滅させた[42 **日本海**]海戦でもバルチック艦隊を壊滅させ、優勢に立った。

戦争はこれまでの常識を覆す大量の戦死者・戦傷病者が発生し、当時の国民総所得に相当するような膨大な軍事費を要した。この費用の多くは、[43 **アメリカ**]・[44 **アメリカ**]での外国債募集と、内国債や増税でまかなわれた。とくに生活必需品にたいする[45 **間接**]税の増税は、まずしい人々などへの大きな負担を強いた。国民の中にも厭戦気分がうまれ、与謝野晶子は「[46 **君死にたまふこと勿れ**]」を発表した。他方、ロシアでも[47 **革命運動**]が発生、戦争継続は困難になっていった。こうして両国は[48 **アメリカ**]大統領セオドア・ローズヴェルトの仲介で[49 **ポーツマス**]条約を締結した。この条約の結果、[50 **朝鮮**]に対する日本の指導・監督権が認められ、事実上植民地化の方向が決まった。またロシアがもっていた[51 **旅順・大連(遼東半島先端部)**]の租借権・長春以南の[52 **南満州**]鉄道と付属の利権を日本が譲渡された。また北緯50度以南の[53 **樺太(サハリン)**]の譲渡などが決められた。しかし賠償金が獲得できなかったことへの国民の不満から[54 **日比谷焼き打ち**]事件が発生した。

- ①[55 **1904**] (明治37)年、[56 **日露**]戦争開戦
→イギリス・[57 **アメリカ**]の支持、ロシア国内の混乱→日本に有利に展開
- ②[58 **旅順**]占領・[59 **奉天**]会戦での勝利、[60 **日本海**]海戦での勝利
ロシアでの[61 **ロシア第一革命**]発生、日本での戦費・人員・補給などの負担限界に
↓
- ③アメリカ大統領[62 **セオドアローズヴェルト**]の仲介により[63 **ポーツマス**]条約締結
ア) [64 **韓国**]に対する日本の指導・監督権を認める
イ) 清国内の[65 **旅順**] [66 **大連**]租借権、[67 **南満州**]鉄道/付属の利権譲渡
ウ) 北緯50度以南の[68 **サハリン(樺太)**]の譲渡
エ) 沿海州、カムチャツカでの漁業権承認
- ④国民の不満爆発→[69 **日比谷焼き打ち**]事件発生

d. 韓国併合と日露戦後の国際関係

日清戦争後、朝鮮が[70 **ロシア**]へ接近すると日本の駐朝鮮公使三浦梧楼は朝鮮政府の実権を握っていた[71 **閔妃**]を殺害した。この事件は朝鮮の[72 **ロシア**]接近をいっそうすすめた。また朝鮮も国名を[73 **大韓帝国(韓国)**]と改称、国王は皇帝の称号を用いるようになった。

1904年[74 **日露**]戦争がはじまると日本は韓国に進駐、第一次日韓協約で韓国政府内に日本が推薦する[75 **顧問**]を置き、外交事案などの協議を認めた。

この間、日本は[76 **アメリカ**]との間で秘密協定(桂ニタフト協定)をむすび[77 **フィリピン**]領有の承認と引き換えに日本の韓国支配を認めさせ、[78 **日英**]同盟改定にさいしイギリスにも韓国の保護国化を承認させ、ポーツマス条約でも日本の指導・監督権が承認された。これを背景に伊藤博文は韓国に乗り込み第二次[79 **日韓協約**]で[80 **外交**]権を奪い[81 **韓国統監**]を置くことを承認させるという形で韓国の[82 **保護国**]化を実現した。